

構造工学委員会「橋の計画と形式選定の手引き作成小委員会」委員の公募

土木学会構造工学委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。この小委員会に参加いただける委員を公募します。本委員会の目的および内容は以下の通りです。

1. 設立主旨

道路橋示方書の改定では、部分係数設計及び限界状態設計フォーマットが本格的に導入され、橋梁の安全性や性能に対するよりきめ細かな設計、設計供用期間を100年とし、その間適切な維持管理を行うことが規定され、個々の橋梁のあり方をより丁寧に吟味したうえで、100年間使い続けるための設計とマネジメントの実施が求められています。

今回公募します小委員会の前身となる「橋梁予備設計の適正化に関する研究小委員会」(2018年10月～2023年5月、委員長：久保田善明)では、『橋の計画と形式選定の手引き』(2023年5月に電子出版：ISBN978-4-8106-1108-3)を、構造工学技術シリーズとして発刊し、構造工学委員会のウェブサイトにてPDF形式で公開しています。またその講習会を土木学会の本部行事としてYouTubeの動画再生によるオンデマンド形式にて過去3回開催し、1,100名を超える技術者の参加、一般公開分も含めて動画の総再生回数は2,400回を超えるなど、多くの実務者の研鑽や実務での活用に役立てられています。一方、出版から3年が経過し、この間、能登半島地震による橋の新たな被災事例の報告やBIM/CIMに関する取組の進展、AIの急速な普及、補修/補強や改築/架替に関するさらなるニーズの高まり、道路橋示方書の改定など、橋をとりまく情勢にも変化が生じています。また、紙媒体による出版への期待もあることから、このたび、最新情報を加えた『橋の計画と形式選定の手引き』の改訂版を紙の書籍として出版するための小委員会を立ち上げることとなりました。

2. 活動方法および活動内容

『橋の計画と形式選定の手引き』の執筆に向けたこれまでの議論を踏襲して、全体会議および個別のWG活動を通じて、最新情報を反映した改訂版の執筆ならびに書籍としての出版対応を進めることを予定しています。

3. 活動期間

2026年6月～ 2年間を予定

4. 委員構成(案)

委員長	久保田 善明	富山大学
副委員長	松村 政秀	熊本大学
幹事長	森 彩	中央復建コンサルタンツ株式会社
幹事	白戸 真大	国土技術政策総合研究所
ほか		

5. その他

交通費等の支給なし。

メール会議・審議も活用した運営も予定します。

6. 応募方法（期限：2026年5月11日）

本小委員会に委員として参加を希望される方は、(1)氏名、(2)年齢、(3)所属・連絡先、(4)応募理由、(5)その他 『橋の計画と形式選定の手引き』を踏まえ橋梁設計プロセスに対する疑問や意見などをA4用紙1枚内に記入し、下記応募先までE-mailにてご連絡下さい（件名：橋の計画と形式選定の手引き作成小委員会への応募）。委員構成は、これまでの体制を基本的に踏襲しつつ、各委員のご専門分野やご経験等のバランスを考慮して検討いたします。そのため、ご応募いただいた場合でも、ご希望に添えないことがございますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

7. 応募先・問合せ先

熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター

松村 政秀, 096-342-3546

E-mail: matsumrua-m@kumamoto-u.ac.jp